

## 乗務員に対するあらゆる暴力を許さず、安全で安心して働ける職場をつくり出す緊急集会



2018年8月7日  
昭和町ふれあい館

緊急にもかかわらず  
**153名が結集!**

7月13日、東海道線藤沢駅で乗務員への暴力行為が発生しました。これは乗務員が旅客から乗務中にサインを求められ要望に応えたことが逆にとられ、暴力行為を受ける事態にまで発展してしまったのです。この事象の起因となった乗務員がお客さまに行うサインについて、会社は安全衛生委員会の場で「サービス業であり一律に断るのは厳しい。写真を撮ることと一緒に「列車の旅の醍醐味である」と回答し、対策については「危ないと感じたら毅然と対応してほしい」と述べるだけで、事象を周知する掲示も出していません。いま会社は、これまでの「鉄道を起点としたサービスの提供」から「ひとを起点とした価値、サービスの提供」への転換を打ち出していますが、その主役となる「ひと」が守られず、過剰なサービスを肯定し助長するような姿勢では現場で働く仲間を守ることができず、労働組合として看過することができない問題です。

東京地本は8月7日、昭和町ふれあい館にて、あらゆる暴力行為を許さず、安心して働ける職場をつくり出す。乗務員としての役割、真の輸送サービスを追求していく。そして、会社施策に向き合い、職場で発生している問題に向き合うために「乗務員に対するあらゆる暴力を許さず、安全で安心して働ける職場をつくり出す緊急集会」を153名の結集で開催しました。

全体討論では、車掌は「列車防護係員」として、お客さまを目的地まで安全に移動させる「移動労働」が大前提であり、その中で乗務員への暴力は、安全問題や輸送サービスの提供に大きく影響すること。現場に立ち現れている生産性向上に伴う効率化施策の弊害の実態。車掌業務のあり方、役割と意義などについて発言がありました。

東海道新幹線で発生した殺傷事件を受けて、車内治安の維持と確保が注目されています。また、2020年のオリンピック・パラリンピックの開催を控え、さらなるインバウンドの増加が見込まれる中で、車掌業務の重要な役割である「車内秩序の維持」は喫緊の課題です。そのような中で、会社から提案を受けた「常磐線特急の車掌乗務体制見直しに伴う運用改正」では、安全性やサービス品質の低下を招くことは明らかであり、施策を担う組合員だけでなく、社会の要請からも理解と納得感が得られず逆行しています。

会社は7月3日にグループ経営ビジョン「変革2027」を発表し、生活サービス事業及びIT・Suica事業に経営資源を重点的に振り分け、新たな「成長エンジン」としていくと打ち出しました。また、乗務員勤務制度の改正を行い、ワンマン運転の拡大、その先に乗務員を「輸送サービススタッフ」に変えていく考えです。しかし、その前に現場が直面している課題に向き合い、車掌業務のあるべき姿を示すべきです。一方で、私たちも車掌業務について正しく認識し、鉄道業として果たすべき「真の輸送サービス」を、職場から組合員と共につくり上げていくことが重要です。

労働組合は組合員の立場に立って再発防止に努めていきます。そして、いかなる暴力行為を絶対に許さず、組合員が安全で安心して働ける職場をつくり出すために、今回の事象を鑑みて、①サインには応じない、②暴力行為を受けた場合は、自らの命と安全を守るために速やかに警察や駅に応援要請を行い、病院に行く、③継続乗務が困難な時は「乗務ができない」とはっきり言う、ことを対策として求めていきます。労働組合の存在意義を発揮し、現場で発生している問題や課題に向き合い、職場を原点にした活動を組合員と共に構築していこう!

暴力行為を許さず、組合員が安全で安心して働ける職場をつくり出すために、議論を巻き起こそう!